

# 黒毛和種の受精卵の採取および処理に関する受託研究成績について

畜産研究センター

稲谷 憲一、岡 幸宏

平成 20 年度より、愛媛県農業関係試験研究機関受託研究要綱に基づき、農家の飼養する供胚牛に過剰排卵処理後、体内受精卵の採取を行った。結果、平成 20 年 4 月から平成 22 年 12 月までに 16 戸 36 頭の黒毛和種の採胚を実施。平均採取胚数  $16.8 \pm 12.8$ 、平均正常胚率  $72.2 \pm 26.7\%$  であった。産歴ごとの平均採取胚数及び平均正常胚率は 1 産 (16 頭) :  $16.9 \pm 14.9$  個  $72.6 \pm 27.6\%$ 、2 産 (7 頭) :  $22.6 \pm 11.0$  個  $59.5 \pm 36.7\%$ 、3 産 (6 頭) :  $15.5 \pm 12.5$  個  $84.3 \pm 15.9\%$ 、4 ~ 7 産 (4 頭) :  $13.0 \pm 9.5$  個  $84.1 \pm 18.5\%$ 、8 産以上 (3 頭) :  $10.3 \pm 10.4$  個  $60.2 \pm 10.8\%$  で、供胚牛の産歴による差は認められなかった。供胚牛の中には産肉能力の育種価評価の低いものも認められた。

今後は、育種価評価データの活用による高能力な供胚牛を選抜することで、より効率的な改良増殖を検討する必要がある。

畜種 : 牛、分類 : 畜産技術、キーワード : 受精卵